

[第 102 回藤樹人間学塾のご案内]



皆さま

令和 2 年 1 月

NPO法人高島藤樹会

いつもありがとうございます。本年もどうぞよろしく
お願いいたします。

本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。
1月は、第 101 回藤樹人間学塾を開きました。

冒頭、昨年 12 月にアフガニスタンで凶弾に倒れられた、中村哲医師の話をしました。中村医師は、青年時代に自分の将来を「日本のために捧げる」という使命感を持たれ、医師になって 1980 年代後半からアフガニスタンの病院で治療活動をされてきました。しかし多くの患者が清潔な水を飲めないために病気になることが解って井戸を掘る活動を始め、その後干ばつによる飢餓を救うために用水路を建設し農業を再生して多くに人命を救われた大偉人です。「まず食料と家庭の確保ができれば紛争は収まる。平和に武器は要らない」と言われていました。

『中庸解』は第 20 章で、西郷隆盛が熟読したところといわれています。

「…ゆえに君子は、もって身を修めざるべからず。身を修めんと思えば、もって親につかえざるべからず。親につかえんと思えば人を知らざるべからず。人を知らんと思えば、もって天を知らざるべからず」。…大意は、教養ある人は身を修めなければならない。身を修めようと思えば、父母と自分は一体であることを推し広げて父母以外の人にも仁（思いやり）を施せば、良知本体に至ることができる。

フリートーキングでは、「「孝」は大事だが長寿社会で親が年を取って来ると親孝行が難しくなってくる」という切実な意見や、「子供の相談に乗っていると、幼少期の根になる出会いが人生を左右すると感じる」という意見等が出て、それらについて話し合いました。

学ぶは愉し！ あなたも参加されませんか。

記

- 日 時 令和2年2月1日(土)
15時～17時
- 場 所 安曇川公民館(高島市安曇川町田中89)
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 中江藤樹著・西晋一郎通釈『中庸解・通釈』第 20 章 p.227～
(テキストは用意します。(1,900 円))
- 塾長 田中 清行 (090-1026-7882)